



アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。  
 この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。  
 Vol.15では第23, 24回検討会、堤返し、九州川のワークショップの内容をお伝えしました。  
 Vol.16では第25, 26回検討会、アザメの瀬トレンチ調査の内容をお伝えします。

## 第25回検討会開催！ H15.11.25

### 現状の問題点と現況報告！

できたばかりの相知町交流文化センターで行った第25回の検討会。アザメの瀬クリークと周囲の湿地の平面位置等について熱く議論しました！

工事、出水時期等の関係で初めの計画よりもかなり松浦川本川の方に近づいたアザメの瀬クリーク。『今回の工事で、当初みんなで計画した平面位置に戻そうよ』という意見が出た。賛否両論だったがその結果は？



部屋いっぱいの人

クリーク堤防を一部低くし、そこから水を平坦部に入れ湿地部を作る【青色:堤防取り除き部 水色:アザメに入る水】

結論は今あるクリークをつぶしてまで新しく作る必要があるの？という  
 ことで、これまでの位置でOK。ただし工夫を凝らし、アザメの瀬クリーク  
 堤防を一部低くすることで、水を周囲の湿地部に導入しやすくして  
 湿地部を維持するということに・・・「よくこんなこと思いつくな」と感じ  
 ました。と、同時にいいものを作りたいたいという思いが伝わってきます！！

15.11.20アザメ川の写真



## アザメの瀬トレンチ調査実施 H15.12.09

第25回検討会で『クリークをどれだけ掘り下げるか』を、地下水位の状況を今一度確認して  
 決めたほうが・・・ということで、松浦川出張所の協力のもと、アザメの瀬現地でトレンチ調査  
 (素掘り)を行いました。掘ることによっていろいろと昔のアザメの様子を見ることもできました。



右の写真は の層  
 から見つかった、  
 大昔の木の葉が炭  
 化したもの。葉の  
 形がくっきりと  
 残っています。

粘土層(灰色部分が酸化されている粘  
 土) 粘土層(層に比べ色が濃く酸化  
 されていない粘土) アザメが川だっ  
 た?頃の河床材料(粒子が丸い)



湧水の様子

今回の調査から、現地盤(T.P.4.3m)から2.5m程度掘り下げると湧水が  
 でてくることが確認できました。よって湿地面地盤高T.P.1.5m程度に設定  
 すれば必ず湿地的環境が維持できることが推測できました。また の層が  
 砂礫層であることから、昔は松浦川が流れていたのではと推測できます。

# 第26回検討会開催！ H16.1.9

## 湿地内の観察路どうするの？

新年に入り1回目の第26回検討会。新年早々、かなりヒートした検討会になり、1) ビジターセンター施設見学、2) モニタリング道路の設計について話しました。

1) ビジターセンターの施設内はどこを参考にすればいいの？

施設見学はただ見に行くだけでは意味がない！ 例えば、**維持管理・施設の規模**などポイントを絞って見に行ったほうが良い。

ビジターセンターに設けるトイレは環境に配慮したものがいいのでは・・・。

などの意見が出ました！ 結局、見学場所は『**たびら昆虫自然園**』（長崎県田平町）などに行きます。次回の新聞で見学内容をお伝えしますのでどうぞ期待！



2) 湿地内のモニタリング道路（観察路）はどんなものを、どれくらい作るの？ 何か良いアイデアない？

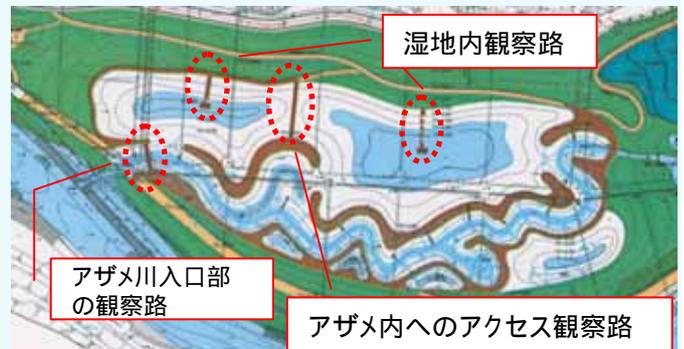
ハツ橋は**人工物**だからなるべく最小限の数で抑えたい！

湿地内が出水でどう変化するか予測できないため、安い国産の木でハツ橋を作っては？ しかし、出水ですぐ壊れたのでは意味がないのである程度の**強度は必要**！

単管に木をのせて安価に済ませ、今後の様子見て、恒久的なものを設けたら！

イカダ橋（流れ橋）を付け、**出水がきたら流れるようにしたら？** 管理は大変だけど、ゴミが引っかからないし何度も使えるから経済的。

最初から管理も何もいら**ない石がいい**んじゃない？ アザメの瀬橋の下にいいのがあるよ！



結局、アザメの瀬クリーク入口は落橋した石橋の再利用、他の観察路は単管で今後の様子を見た後、恒久的なものを付けてみてはということになりました。こんな意見は事務所内だけで話したのでは、なかなか出てこない発想だと思います！ アザメをいいものにしようとするみんなのパワーはすごいもんだ！ としみじみ感じました。

余談ですけども、湿地の山側に取り付ける道路の側溝は、**生き物が滑り落ちてはい上がる**ことができる側溝です！ これで**湿地と山側とのアクセス出来やすくなりますね**。

今回の血形側溝イメージ  
(這い上がりやすい)



**編集後記** 平成16年も幕開け、アザメの瀬検討会もH13年11月の第1回から数えて26回となりました。毎回みなさん方と議論を重ね、練り上げてきた計画が現在、工事によって全容が現地で直に明らかになってきました。日に日にこれから工事が進んでいきます。楽しみですね～。